

2024年度活動概要

英語語彙研究会

第72回例会を、2025年3月15日（土）、東京電機大学東京千住キャンパスにて開催しました。本例会は、2024年度に引き続き「読み切りゼミ方式」で実施され、参加者が1冊の書籍を短期間で集中的にレビューし、最新の語彙研究の知見を共有する機会となりました。今回の課題図書は、Teng, M.F. & Reynolds, B.L. (Eds.) (2024). *Researching Incidental Vocabulary Learning in a Second Language* (Routledge) であり、偶発的語彙習得に関する最新の研究成果を共有しました。

例会は10:00から17:00までの予定で進行し、6つのスロット（10:00-、11:00-、13:00-、14:00-、15:00-、16:00-）に分けて各章のレビューが行われました。各スロットでは2章ずつ取り上げられ、発表者が要点を整理しながら解説を行った後、参加者とのディスカッションが展開されました。各レビューはA4用紙4ページ相当の内容で、約25分間のプレゼンテーションが基本となりました。特に、偶発的語彙習得の定義や測定方法、学習環境の影響などのトピックについて活発な議論が交わされ、実践的な指導法への応用についても意見交換が行われました。

今回の例会は、東京近郊のみならず全国各地からの参加者が集まりました。対面形式ならではの利点を活かし、発表後の質疑応答や意見交換がより活発に行われ、参加者同士のネットワークの強化にもつながりました。また、例会後にはJR北千住駅近辺で懇親会が開催され、語彙研究に関する話題にとどまらず、教育現場の課題や各大学の現状などについて情報交換を行う貴重な機会となりました。特に、語彙指導の実践に関する具体的な事例を交えた意見交換が行われたことで、「現場での指導に役立つ多くのヒントを得ることができた」という声も多く聞かれました。

本例会は、「一人ではなかなか読み進めることが難しい専門書を、複数人で分担しながら短期間でレビューする」という形式が非常に好評を博しました。そのため、今後もこの 방식을継続しながら、より多くの研究者や教育者に参加していただけるような工夫が求められると考えます。また、例会の終盤では次年度の研究会活動についての予告も行われ、今後の課題図書の選定や運営方法について参加者から貴重な意見が寄せられました。